



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y' S MEN' S CLUB

The Y's Men's Club of Kanazawa

CHARTERED JULY 9, 1947

c/o KANAZAWA YMCA 44-1-201 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998 JAPAN

- 国際会長主題 「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」
 アジア地域会長主題 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
 西日本区理事主題 「原点を知り将来に生かす！」
 中部部長主題 「明るく 清く 美しく 一よき隣人として (Befriending) ー」
 金沢クラブ会長主題 「一人はみんなのために、みんなは一人のために」 “One for All, All for One”

2022 9 月間強調 EMC YES

今月の聖句(西 信之君)

わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。私たちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

コリントの信徒への手紙4章17～18節

9月強調月間

未来につながるEMC活動
新規クラブ設立の為にYES献金
100%を！

塚本勝己 EMC事業主任
(京都ウエスト)

9月例会プログラム

とき	2022年9月15日(Thu.) 18:30~20:30
ところ	KKRホテル金沢
会費	¥3,000(会員は無料) ¥2,000円(メネット)
司会	西 信之君
開会・点鐘	幸正一誠会長
主 題	司 会 者
ワイズソング	一 同
今月の聖句	司 会 者
ゲスト紹介	幸正一誠会長
食前の感謝	西 信之君
スピーチ	山内ミハルさん
	“電話カウンセラーとして”
ハッピーバースデー	幸正一誠会長
ニコニコタイム	吉川與志子さん
委員会報告	各 担 当
YMCAの歌	一 同
閉会・点鐘	幸正一誠会長

8月 クラブ活動状況

第1例会 (8月18日 Thu.)	
メ ン:	伊藤、数澤、幸正、西、山内、吉川 (6名)
出席率:	75%
メネット:	伊藤、数澤 (2名)
ゲ ス ト:	清水Yサ事業主任、島田さん、下山さん、 宮田君、北村心君、 (5名)
第2例会 (8月1日 Mon.)	
メ ン:	伊藤、数澤、幸正、山内、吉川 (5名)
メネット:	伊藤、数澤 (2名)
ニコニコタイム	8,300円
クラブファンド	累計 17,300円
BFポイント	
切手	0g 累計 200g
現金	0円 累計 0円

会 長	幸正 一誠	中部部長	山内ミハル
直前会長	山内ミハル	中部書記	荒川 恭次
副会長	西 信之		(名古屋グランパス)
書 記	南 唯乃	中部会計	伊藤 仁信
メネット会長	数澤 淑子	事務局長	数澤 輝夫

第一例会:	毎月第三木曜日 18:30~20:30
	KKRホテル金沢 金沢市大手町2-32
	Tel (076-264-3261)
第二例会:	毎月1日 17:30~20:00
	金沢ニューグランドホテル 2F (蔵) Tel (076-233-1311)

YMCA と共に

数澤 輝夫

私が金沢 YMCA に入会したのは1952年(昭和27年)11月19日でした。また同年12月18日に金沢ワイズメンズクラブに入会しました。当時の理事長は三浦孝次氏、主事は瓜生菊雄氏でした。金沢 YMCA 会館(旧日本赤十字病院を購入)は柿木畠にありました。当時、諸学校から英語の先生を講師として迎え英語教室がありました。青年会には、サークルとしては聖書輪読会、フォークダンス、写真同好会、サイクリングクラブ等がありました。当時、私は電電公社に勤務していました。金沢 YMCA 会員として、皆さんと一緒に楽しいサークル活動をしていました。中でも忘れられないのは「ワイズメンの歌」の訳詞、並びに「YMCA の歌」の作詞をされた淵田多穂理氏が1954(昭和 29)年～1958(昭和 33)年、金沢 YMCA 主事としてお働きの時代です。淵田主事は熊本より甥を伴って来沢、着任され YMCA 会館の中で炊事場付きの部屋が二人の生活場でした。淵田主事は YMCA のために精力的に献身されました。時代の流れでサイクリングブームが始まり、当会館でも石川県サイクリング協会理事長の北七郎氏を講師としてサイクリング車の変速ギア使用方法などの講習会が開催されました。当時、私は YMCA サイクリングクラブ会長をしていたので、YMCA 会館入口には「石川県サイクリング協会事務局」の看板を掲出させて頂きました。その頃から私は県サイクリング協会事務局長を長年務めました。ある年 9 月の祭日に YMCA 主催で金沢～鶴来間のサイクリングを実施しました。晴天に恵まれ、参加者15名は二つの班に分かれて YMCA 会館前を出発、鶴来の天狗橋までのサイクリングを楽しみました。これには淵田主事も参加されていました。また、YMCA 主催で金沢市内の教会青年を対象に北陸学院中学校でバレーボール大会を実施したことも懐かしい思い出となっています。

【8 月例会の報告】

近年になく猛暑の 8 月、30 度を超える日々の中、コロナ感染者が 1 日 2 千名を超える日もあり、熱中症対策と感染予防対策に追われる日々でした。

幸い、金沢クラブでは健康を損ねる会員もなく、ワイズ活動を中止することなく続けることができたことは大きな感謝です。8 月例会では、久しぶりに西ワイズの講話をいただき、ふるさと石川の歴史への知識を深めることができました。

お話の概要をご本人にまとめていただきました。



気多大社入江に上陸した

辰国(秦国:新羅の前身)王子一行による能登の開拓

西 信之 記

日本海に面する気多大社は、七尾から羽咋に続く邑知潟地溝帯の北西端に位置し、その北にある断崖海岸は、能登金剛と呼ばれている。金剛海岸は辰国の釜山の西の巨済島やその周りがあるやはり断崖の海岸で、能登金剛と対になっている。この能登金剛という地名は、ここに住み着いた民族が元々は同じであることに由来している。この王子は日本書紀によると実質的に最初の天皇である崇神天皇の祖父の子にあたり、やがてこの地に遣わされる崇神天皇の叔父「大彦命」の兄弟か本人自身である。王子一行は、やがて七尾に移り、この地の稲作、漁業、織物といった産業を振興、特に北の地との貿易に力を注いだ。

七尾市内の東海岸の近くに縄文時代～近世に及ぶ遺跡が発掘され、特に古墳時代前期の南北 44m、東西 17.2m の敷地に 60 本の大型柱穴(深さ 1.5m、幅 1m、柱間隔平均 4.3m)が出てきた。この規模は大和の巻向遺跡を大きく凌ぐ木造建物遺跡であり、大和政権が大きく関わっていたことを示すものである。

この万行遺跡の西北西の丘の中央に気多本宮が崇神天皇の祖父、後に孝元天皇と命名された人物によって建立され、大国主の命(辰国王子)を祀っている。孫の崇神天皇がこの王子の上陸地(羽咋竹津浦)に気多神宮(大社)を移設し、七尾の神社は気多本宮と言われるようになった。このように、気多大社海岸に上陸した辰国王子一行と大和の実質的初代天皇崇神天皇とは、同じ家族であり、大和の統一以前から邑知潟地溝帯一帯を開拓、貿易の道を切り開いたことによって富を蓄積し大彦命を北陸から東北に派遣し、他の三道将軍の助けを得て大和国統一へと道を開くのである。

辰国からの移住民は、馬・牛・大型犬そして養蚕や麻の栽培、機織り技術や、鎌や釜、包丁や斧、刀等の青銅器を作る様々な先進技術を普及させた。日本書紀によると崇神天皇は、尾張の妃との間にできた、大入杵命とその妹「沼名木入比賣命（ぬなきいりひめのみこと）」を七尾と中能登に住ませ、媛は住民に機織りの技術を普及させ、現在の中能登町の能登上布や近代化された丸井織物に繋がったのであろう。大入杵命の墓は、中能登町の小田中にある新王塚古墳に、沼名木入比賣命の墓はその前の小さな前方後円墳として、古くから地元の人々から大切にされている。

一方、崇神天皇の息子の垂仁天皇の皇子磐衝別命（いわつくわけのみこと）がこの辺の領民を苦しめていた怪鳥を退治し、この時皇子の連れてきた3匹の犬が怪鳥の羽を食い破ったという伝説が基になっているとされる。それが「羽喰」の地名が起りであり、現在の「羽咋」になったのではないかと伝えられる。この羽咋は、邑知瀉地溝帯運河の西端にあり七尾から小型船で運ばれた物資を大型船に積み替えて大和に運ぶ重要な拠点となった。

図1にGoogleMapで見た、羽咋から七尾にかけての邑知瀉地溝帯全域を示す。 (図1)



西端に王子一行が上陸した気多大社海岸（羽咋竹津浦）が位置し、地溝帯に沿って東北東に移動し、七尾の海岸に至った。JR線が円弧を描いて北に曲がる丘の中央に気多本宮がある。王子一行はこの見晴らしの良い丘を中心に一行の住居とその周りに田畑が開拓されたと考えられる。海岸沿いの道が開け、少し東岸の低い台地に万行遺跡として発掘された大型木造倉庫群が建築された。この遺跡には縄文住居跡も発見されたことから、飲料水としての湧き水が湧き、周りは田畑の耕作にも適した場所であったと考えられる。今は小川となってしまった、遺跡の側の川は、昔は船が通れる程幅広く、邑知瀉運河に繋がっていたであろう。長年の山からの土砂崩れと土砂の堆積により、運河の七尾側は埋まってしまい、やがて豊富な水を利用する田

んぼになってしまったのであろう。

以上のように、羽咋から七尾に至る地に長い流浪を重ねてきた民族が、この地に土着し、高度な農耕、機織り、航海技術を利用した海洋交易によって繁栄し、初代大和朝廷は、この地から得られる富を基盤として東北以南の全国統一を果たすが、琵琶湖東岸に住み着いた渡来人息長氏の娘、神功皇后によって百済付近まで南下していた騎馬民族群によって侵略され天皇家に婿入りという形で入り込み、権力を握り、繁殖力が高い一族は、全国に広がり、やがて武士の世となる。北中国の慕容鮮卑の古墳の壁画に、武士の騎馬姿と紛うほどの人物が描かれているのは、彼らの素性を証明しているであろう。



【9月第二例会報告】

日時：9月1日（月） 17：30～19：30

場所：金沢ニューグランドホテル 蔵

参加者：伊藤仁信、數澤輝夫、幸正一誠、山内ミハル
伊藤悦子、數澤淑子

- ① 9月例会について
卓話：山内ミハルワイズ
- ② クラブ創立75周年記念例会について
準備の確認

Happy Birthday

今月は該当者はありません

10月の担当

司会・聖句 南 唯乃君
ブリテン 西 信之君

